

学部 / 看護専門領域 / 看護の実践

科目コード：120305

小児看護学実習 I Child and Family Health Nursing : Practicum I

担当教員	西村 真実子 金谷 雅代 千原 裕香				
実務経験					
開講年次	3年次前期	単位数	1	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	45		
Keywords	乳幼児 小学校低学年 成長・発達 子どもの経験学習を深める関わり 保健に関する集団指導				
学習目的・目標	目的：乳幼児との関わりを通して、子どもの発達過程やその特徴、子どもの発達や心理を考慮した関わりについて理解を深める。目標：1. 乳幼児の成長・発達、特性、生活について理解を深める。2. 乳幼児の経験学習を深める関わりについて学ぶ。3. 保健に関する事項を幼児にわかりやすく説明する方法について学ぶ。				
授業計画・内容					
回	内容				
	<ol style="list-style-type: none">1. 乳幼児を対象とし、保育施設で実習する。2. 担当クラスの乳幼児の成長・発達を事前に学習しておく。3. 子どもと遊んだりして関わり、コミュニケーションをとるとともに、子ども同士の関わりを観察する。4. 保育施設では、乳幼児のケア（世話）をするとともに、乳幼児の反応や保育士の関わりを観察する。5. 3～5歳の幼児を対象に、テーマを決めて15～30分程度で、保健に関する説明を行なう。<ol style="list-style-type: none">(1) 子どもの注意を集中させるための工夫や、子どものそれぞれの発達状態を考え、その年代の子どもがわかるように様々な工夫をする。(2) 学内における事前指導やりハーサル、実習施設の指導者による個別指導を受けて実施する。(3) 時間帯やどのような設定で行なうかは、指導者と相談して行なう。7. 実習目的に関する学びがあった場面を実習記録に再構成し（場面の状況、乳幼児間や乳幼児・保育士・学生間の関わりを経時的に記述する）、学習内容を整理する。ノンバーバル・コミュニケーションについても注意深く記録する。8. まとめのグループワーク；子どもの発達や特性、子どもへの関わり方に関して、疑問の残った場面や学びがあった場面、印象深かった場面を紹介し合い、疑問の解決や学びの共有を目的として意見交換し、理解を深める。				
教科書					
参考図書等	田村通子他：これなら子どもを動かせる 保健指導とアイデア教材 第1巻～第5巻、東山書房、1998 その他 オリエンテーションで紹介				
評価指標	1. 出席 10% 2. 実習内容・実習記録 75% 3. 実習態度・姿勢 15%				
関連科目	小児看護学概論 小児看護学方法論 小児看護学実習Ⅱ				
教員から学生へのメッセージ	各発達段階の子どもは生活の中で何を感じ、考えているのか。また、どんなことを頑張り、どんなことができるのか。成長・発達状態に応じた子どもの経験学習を促すにはどのように関わるのがよいか等について、子どもと関わって考えよう。				